

夏休み学校便り

津南中学校便り

夏休みの生活を有意義なものにするため自分の生活設計を確立しよう。

一般的事項

- 一、健全な体と体力の向上について身体検査の結果にもとづいて治療をしよう。
- 二、学力の増進をはかる
- 三、家庭生活について考える
- 四、家族の一員として家庭責任に心がけよう。
- 五、2家庭生活の合理化について工夫しよう。
- 六、家族会議、レクリエーションについて

町村議長会長となつた

福村 広 人 氏

津奈木町議長である福村広人氏は、西北郡議長会長でもあるが、県なる津奈木町のこのみ念頭におかれ、議長会会長に一致して同氏を議長に推した。この職は県の六役の一つで、六役とは、知事、県議長、市長、町村議長、市議長、町村議長、重要したる本町は各管の上ない。なるホストで知事は勿論県庁の名調との連絡交渉が密であり、又政府とのつながりも深い。氏は県内

必ず守るべきこと

- 一、規律正しい生活
- 二、礼儀を重んじ、服装を正し、津南中学生としての自覚と誇りを持つ。(小学生のよき指導者)
- 三、ラジオ体操
- 四、各分団毎に小中高同で自主的に、三、朝の学習と水泳
- 五、毎日午前10時までは家庭学習時間とし、水泳は午前10時より午後5時までとする。回数は一日一回を限度とし、一回三十分程度とする
- 六、交友、外出、外泊、旅行など一、暴力金品の貸借しない。
- 七、2夜間外出は午後八時(日没)まで三、外泊旅行は届ける。
- 八、五、アルバイトは保護者の同意を得て学校に届を出す。

当面の問題

津小 溝部 康世

授業参観の折、教室の暗さと新国道の騒音が問題となった。教室の暗さは照明設備で解決するが、問題は騒音である。昨年新校舎で飛入り授業をした時、列車が通過する時、話を続けていたら、列車が通過する間は話をやめてくれと文句が出て驚いたことがあった。昨年までは新校舎の列車の騒音が問題であった。ところが新国道の完成により事情は一変した。昨年鉄道側にて今年国道側校舎に移った先生に「おら、いいか」と聞くと、断然鉄道側がいいと言っている。時たまの列車の騒音はひびきながら通る自動車の騒音の比ではないと言っている。父兄も授業参観に来て、窓ぎわに立って始めてそのひどさに驚ろかされる仕末で、国道を学校下を通すかどうか論議された時、この騒音を予想した人が果して何人いたであろうか。問題は鉄道の複線化の計画で更に複雑になってきた。それによると、校地の二七坪が鉄道用地になり、鉄道は現在地より十米以上も校舎に近づくとのである。複線が完成し、列車の本数が増



自衛隊の小父さんたちも一しょにまじってする
平国小学校のラジオ体操

し騒音がひどくなった時のことを思うと誠に肌栗の生ずる思いである。この様な教育環境が日本のどこにあらう。おそろしく日本最低の教育環境であった。運輸省の計画が絶対のもので変更出来ないとする校地の移転による解決しかかあるまい。然し事は大事業である。斎藤町長の子供の幸福を願う一、点は燃焼することを祈つてやまな

平国小学校だより

涼しいうちに読書をしよう。本校では子どもたちが本に親しむように、本を読むことが楽しみだという境地に達することを目標として、この夏休み中朝晩の涼しいうちに、十分読書運動をすすめて

青年のいいぶん

「昔の青年団は部落行事、社会つしみに考えあひ、実践し、お互に奉仕を進んで引き受けていたが、今の青年団は、目的もなく遊びの青年団である」とたびたび耳にする。これが現代青年の美しい姿である。こんな言葉に私達青年は嘆息あり、目的のない青年は、青年団に加入してはならない。青年団は、社会奉仕は少なく、入っても「井の中の蛙」に終り、青年だけの活動状況です。しかし、ナツの面があるはず。それより、社会奉仕は多くても青年団に加入し、何かを体得したほうがましではないはず。

早起ソフト

本町としてははじめての企画であったが、時期的に悪かったにもかかわらず、八月八日チームの参加を得、七月十七日午前六時から津南中学校で行われた。毎朝一試合ずつ行った。

ホール大会

津奈木町青年団広報部長 藤原 保智

1 竹中	1 豊協	1 8 豊協
4 竹中	1 山口	1 8 豊協
1 6 竹中	1 4 豊協	1 8 豊協
	1 4 豊協	1 8 豊協
	1 4 豊協	1 8 豊協
	1 4 豊協	1 8 豊協

望ましい人間像

大好き 心の柔和さ、暖かさ 人間の性質はだいたい幼児期とそれにつづく小学生期にきまるといわれる。このころ小動物(犬や猫)を愛しつづけたか、育たなかったかは、人間形成に大きな影響がある。小さいとき小動物を愛した記憶は大人になっても、必ず魂にのこっているだろう。

食事がおいし

食欲旺盛は成長株 その人の健康やスタミナを決定するものは飲食物の質と量とでできる。バクバク食べる人は健康であり、疲れ知らずガンバる成長株で、ますますにホソソ食べるような人は病身か、無気力かで将来の大成を疑むことにはべきでない。

午前中はきげんがよい

午前中はニコニコして元気よく、午後には疲れを見せはじめると午前中はシヨシヨしているが、午後から夜にかけて元気が出る型とある。午前までは健康優良体出で、よく正常な心身の持ち主、これに反し一方は神経質、気むずかしいの多い。

酒の量が問題

「上戸は酒の量を知らず下戸は酒の量を知らず」長寿する村の研究で、じょうずに酒を愛することも一つの条件になっている。適当な酒量は、その人の一生に明るい生気をもたらす。酒を一滴も飲まない人は長生きは無理。

両親の和

子供は親に似る。子供をとりまく環境が安定し、平和と愛に満ちていると、子供は性格形成上大切な条件はあり得ない。夫婦仲の悪い家庭から非行少年少女が誕生しやす

音楽

音楽好きに悪人なし 音楽は神の声のように、私たちの心の砂漠にしみ通り、不毛の荒野を緑のオアシスに変えてくれる。幼児期や少年少女期を美しい音楽の中で過ごすことは、この人の魂を決定づけるように思う。家庭に優しい懐かしい人は、小さいころ美しい音楽の中で過ごした人に多い。

津奈木

発行所 津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(津奈木)24番
編集人 岡松 杜
印刷所 緒方 印
八代市通町
電話(八代)代表 3118番

新町政の構想

町長 斎藤 亀 齡

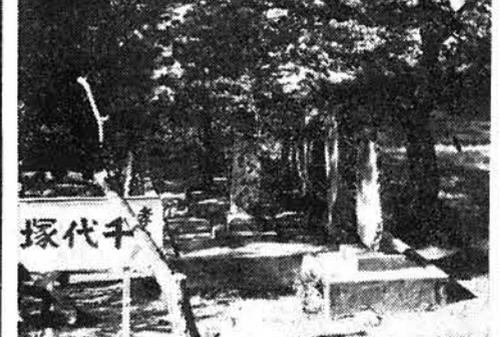
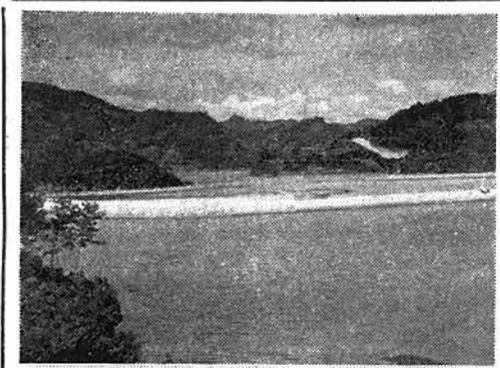


一、施政の方針
平和で明るく豊かな津奈木町の建設もめる事も暗い事もすて豊かな津奈木町としたいものです。
二、重要施策
(一)産業開発
①津奈木干拓の完成
②農業構造改善事業の完成
③産業振興、付随、煙草、普通作等に力をそそぎ農家経済の向上をはかる
(二)社会開発
①天の時は地の利にしかず、地の利は人の和にしかず。如何に天地の利に恵まれても伸ぶるところ人の問題である。そこで、
②教育重視、家庭、学校、社会教育に力をそそぎ町作り人作りのいしづえとする。
③各団体の連携育成

先ず農業経済の元締である農協の強化に力をそそぐこと。漁業構造改善事業の主体の補強の強化に力を入れること。其他柑きつ組合、煙草耕作組合等の産業団体の育成強化に努力を惜まぬこと。婦人会、青年団等の発奮向上をはかる等である。

④スポーツの振興
「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と言われているように明朗活たつる町民性はスポーツによつて始めて培われるものである。由來本町は自他共にゆるすスポーツ町であり将来もこれによって町民性の根幹としたいものである。

⑤自然開発
津奈木の町は、陸に黄金色なすけきつ園をかかえ海岸には山脈がせまつていわたるリアス式海岸の景勝をなし、更に奇勝長壁岩を擁し、更に観光資源豊かな土地である。かかる豊富な自然を生かすため海岸道路の改善、温泉の掘き、手がける仕事は多い。
⑥産業交通道路の完備、循環道路の開通等は非やとりけたい数々である。そこで町民諸氏の御協力を願ひてやみません。



(上) 早栗(水俣)がわから見た干拓地。本町世紀の事業干拓の最終を最善に
(中) 琴平地区……上下門の清水地区の次に津奈木町でミカンに最適地といわれる大泊方面の開発
(下) 千代塚……純心不朽とは蘇峰先生のことばである、世が進んでも誠の道はすたれさせてはならない

